

中で、会議のために集まるのが難しいのです。そこで年2回、春休み（2月）と夏休み（9月）を利用して、研修会を行っています。研修会では各PJが今学期の活動報告と来学期の方針を発表し、情報共有に努めています。さらにはPJが抱える問題点について学生スタッフ全員で解決方法を考えるなど、視野を広げて考え助け合ういい機会になっています。実際、別々に活動しているPJで似たような悩みを抱えていることも多く、共有することで「悩んでいるのは自分ひとりじゃない」と思え、気持ちが楽になります。また、全く違うジャンルのPJから色々な視点でアドバイスをもらうのもとても刺激的です。特に、9月の研修会は2泊3日の合宿形式で行われるので、学生スタッフ全員が打ち解けて、繋がりを再確認するためには欠かせない大切な行事となっています。

学生スタッフをしていてよかったと思えること、それは「一緒に頑張る仲間がいてくれること」です。しかしそれも、最初から全て用意されていたわけではなく、数々の失敗や苦勞と一緒に乗り越えたり、成功した喜びを分かち合ったりしながら少しずつ積み重ねていった関係です。PJも学生スタッフも、今でこそ組織として整ってきましたが、ボラセンという「機関」しかなかった頃から、先輩方とコーディネーターの李さんをはじめとするボラセンの職員さんが5年間、試行錯誤を重ねて創り上げられてきました。

3.プロジェクトの運営

「ボランティア」の難しいところは、定義が人によって様々なところだと日々感じます。それゆえ、私たち自身便利屋のように扱われてしまったこともありますし、協働団体と意見が食い違うこともありました。しかも学生という立場上なかなか意志を通すことも難しく…。悩んだことは一度や二度ではありません。そんなとき、私たちが立ち返るのはPJ毎に定めたコンセプトです。「自分たちが何を大切に、どういった関わり方をしていきたいのか」を定めたコンセプトはPJの指針になりますし、協働していく外部団体にも私たちの姿勢を示すことができます。

さて、ここからは具体的に、私たちがどのようにプロジェクトを運営しているかをご紹介します。

ボラセンと繋がりのある外部団体は、団体登録を行っていて、ほとんどの情報がまずボラセンに集約されています。例えば今、「S 小学校で運動会があるから明学の学生さんお手伝いに来てくれますか？」という依頼がS 小学校からボラセンに寄せられたとします。ジャンルとしては「地域」になるので地域に繋がりを持つ白金サラダに声が掛かります。白金サラダ内で情報共有と検討が行われ、協力したいとなった場合は、白金サラダの学生がS 小学校の担当の方と連絡をとったりお会いするなどして、細かく情報収集をします（必要な人数、お手伝いの内容、持ち物、参加条件など）。それを踏まえ、HPやチラシ、掲示板、大学で用いられている学生用メールを使って一般の学生に募集をかけます。ボラセンに出入りしている学生には、MLを使って直接情報を広めることができます。参加者が集まったら、事前のオリエンテーションをするなどして、当日の動きを確認します。役割分担をし